

上下水道事業経営協議会 説明

【令和5年度上下水道事業会計予算について：水道事業】

上・下水道事業会計の令和5年度当初予算の編成に当たっては、施設の老朽化対策や地震対策、浸水対策など、これまでも重点化してきた取組を着実に前進させつつ、令和4年9月の台風15号によってもたらされた課題への対応を出来る限り盛り込んだものとしています。

さらに「デジタル技術の活用」や「脱炭素社会の実現」への取組なども踏まえながら、経営基盤を強化し、信頼性の向上につなげてまいります。

これらのことにより健全で強靱な上下水道を、将来世代に引き継ぎ、現在のサービス水準を維持、向上していくため、持続可能な上下水道事業の実現を目指した令和5年度当初予算といたしました。

(1) 当初予算について

左上(1)当初予算の棒グラフは、左から右に向かって、収益的収入、収益的支出、資本的収入、資本的支出の順に並んでいます。

水道事業及び下水道事業は、事業のコストを水道料金又は下水道

使用料によって回収する、いわゆる独立採算を経営の原則としており、地方公営企業法が適用されています。この法律の適用によって、財務については、企業会計方式が採用されており、収入と支出が、維持管理に関わる「収益的収支」と、建設投資に関わる「資本的収支」の二つに区分されている点が、大きな特徴となります。

水道事業の予算における、収入の主なものとしましては、一番左の収益的収入に、経営の根幹である 水道料金（水色） 100 億円がございます。

次に、支出の主なものですが、一番右の資本的支出に、建設改良費、いわゆる建設投資 72 億円（赤色）がございます。その詳細につきましては、右側に主な取組として掲載しておりますので、後ほどご説明させていただきます

（２）前年度との比較について

次に、左側下段（２）の表をご覧ください。

これは、令和４年度予算額と比較したもので、単位は百万円で表示しております。

左側 収益的収支について

収益的収支のうち、収入の合計額は、上から５段目、112 億 6,100

万円で、使用水量見込みの減少による水道料金の減少はあるものの、上水道施設災害復旧費補助金の増などにより、対前年度比プラス1億6,500万円 1.5%の増額となりました。

続いて、支出の合計額は下から2段目、102億700万円で、令和4年9月の台風15号の施設被害の修繕経費や電気料金の高騰による動力費が増加したことにより、対前年度比プラス8億5,500万円9.1%の増額となりました。

なお、最下段の純利益は、10億5,400万円を予定しており、これはすべて、今後の建設投資の財源にまわることになります。

右側 資本的収支について

続いて右側の資本的収支のうち、収入計は、上から5段目、40億9,200万円で、企業債収入の増加などにより、対前年度比プラス600万円 0.1%の増額となりました。次に、支出計は、最下段の96億7,000万円で、企業債償還金の減少などにより、対前年度比マイナス9,200万円 0.9%の減額となりました。

右ページ令和5年度の主な取組について

まず、1「水道管・施設の強靱化」でございます。

「管の減災・老朽化対策」では、

総延長 約 2,700 km の水道管の更新、耐震化を、順次、老朽化に応じて実施してまいります。令和 5 年度は、赤の点線で囲った部分ですが、延長で 26.9 km の工事を実施し、管路更新率を 1.0% とする計画で、47 億円余を計上いたしました。

2 年度の実績 11.6 km に比べると、2.3 倍の工事量となります。

この管路更新については、入札不調率が令和 3 年度は 35% で、事業推進の課題となっていますが、4 年度は、発注時期の平準化や発注ロットの工夫、着手日選択制の積極活用などの受注環境の向上と、建設業協会や水道組合と技術者育成や情報共有で連携に努めた結果、入札不調が 16 件と、前年度の 39 件から半減しています。

ふたつ目の「施設の減災・老朽化対策」では、安定給水を担う重要施設の耐震化や老朽化対策を実施します。

令和 5 年度は、12 億 6,000 万円余を計上しており、清水谷津浄水場の更新工事や、日本平山頂整備に伴う配水池の整備など、耐震化・老朽化対策を進めてまいります。

次に、「災害対応・体制の強化」ですが、昨年台風 15 号を踏

また対応として、承元寺取水口の復旧・強化で、「承元寺取水口機能停止に伴う水源検討業務」3,000万円をはじめ、5つの事業を計上しています。

また、給水車に出来る限り頼らない給水拠点の整備として、耐震化した水道管を活用した給水栓の整備を2箇所実施するとともに、軽量で折りたたみ可能な組立式給水タンクの購入など給水体制の強化を進めます。

さらに、清水病院においては、非常用として、近接する冷川水源からの給水管の整備を行います。

2「漏水対策の強化による有収率の改善」ですが、無線型の漏水発見装置を水道管に取り付けて、車で電波を拾うという、新しい技術を活用した漏水調査を本格導入していきます。

水道管の「減災・老朽化対策」と、この「漏水調査・修繕」を両輪として、安定給水の確保に努めてまいります。

次に3「DXの推進、脱炭素社会の実現に向けた取組」ですが、スマート水道メーターによる自動検針の導入検証実験を葵区及び清水区の中山間地域と清水区三保地区で令和5年1月からスタートさせております。

また、省エネ効率の高い機械設備への更新として、清水谷津浄水場内の汚泥掻寄機を更新します。既存の機器に比べ電力使用量を7割以上削減することが期待できます。

水道事業の説明は、以上でございます。

上下水道事業経営協議会 説明

【令和5年度上下水道事業会計予算について】

下水道事業も水道事業と同じく、公営企業会計が適用されており、「収益的収支」と「資本的収支」に予算が区分されます。

(1) 当初予算について

左側2本の棒グラフについて

こちらは維持管理における収支「収益的収支」です。左側が収入を示しており総額218億円、右側が支出を示しており、総額213億円、その差額5億円が黒字となっております。

右側2本の棒グラフについて

こちらは建設投資における収支「資本的収支」です。左側が収入を示しており総額127億円、右側が支出を示しており、総額215億円で、88億円の財源不足が生じていますが、これは企業内部の留保資金などで補てんします。

(2) 前年度との比較について

当初予算額を前年度と比較した表です。

左側 収益的収支について

令和5年度の収入の合計額は、上から5段目、218億3,500万円で、雨水処理に要する経費など一般会計繰入金が増加したことによ

り、対前年度比プラス 5 億 4,900 万円 2.6%の増額となりました。

支出の合計額は、下から 2 段目、212 億 9,000 万円で、労務単価の上昇による委託料や電気料金の高騰による動力費などが増加したことにより、対前年度比プラス 6 億 5,900 万円 3.2%の増額となりました。

最下段の純利益は、5 億 4,500 万円を予定しており、これは全て、今後の建設投資の財源に充てられることとなります。

右側 資本的収支について

収入の合計額は、上から 5 段目、126 億 8,200 万円で、企業債収入の増加により、対前年度比プラス 11 億 7,800 万円 10.2%の増額となりました。

次に、支出の合計額は、最下段 215 億 800 万円で、浸水対策や老朽化対策などの建設投資額が増加したことなどにより、対前年度比プラス 4 億 3,200 万円 2.0%の増額となりました。

なお、支出の「その他」の減額ですが、有価証券は補てん財源残高などを見ながら計画的に購入しており、令和 5 年度の購入額は、前年度に比べ、10 億円減少したことによるものです。

この事業は、令和 3 年度からの新規取組として、これまでの預金利息による収入に加えて、新たに債券を運用することによる利息を

収入するというもので、令和4年度の収入実績は858万円であり、令和5年度以降も同様の収入が見込まれます。

右ページ令和5年度の主な取組について

「1 浸水対策の推進、災害対応・体制の強化」については、「静岡市浸水対策推進プラン」に基づき、浸水対策地区の解消を図ることを目的に、雨水幹線や雨水ポンプ場などの整備を行います。

令和5年度は、令和4年9月の台風15号による被害を受け、建設投資額の中で予算を組み替え、災害対応の強化として、浸水対策の経費を7,000万円増額し、合計で25億5,700万円余を計上しています。

「2 下水道管・施設の強靱化」では、まず、『重要な管・施設の地震対策』についてですが、高松処理区などで下水道管の耐震化を約2.5km実施するもので、14億1,300万円余を計上しています。

次に、2段目『管・施設の老朽化対策』についてですが、城北処理区をはじめ、合わせて約9.1km 管渠の改築工事を実施するほか、各浄化センターなどにおいて設備の更新を実施するもので、46億5,200万円余を計上しております。

「3 水環境の保護・改善」は、静清、中島処理区などの未整備地区において、総延長約5.4kmの污水管渠を整備するもので、22億900万円余を計上しております。

「4 DXの推進、脱炭素社会の実現に向けた取組」については、お客様が来庁することなく管路情報を確認できるようにするため、下水道台帳システムのネット公開に向けた取組によるDXの推進や、水処理施設の統廃合による電気料金の削減などの脱炭素の取組を行います。

下水道事業の説明は以上です。